

研修報告書 No.14

研修先： 大月町国民健康保険大月病院

私は高知県の大大月町にある大月病院で、4週間研修させていただきました。大月病院では、入院患者さんの管理と、外来、往診を行っていました。特に自分にとって印象に残ったのは往診でした。往診では病院から遠いところに住んでおり、病院へ通院するのが難しい高齢の患者さんの診察や、ワクチン接種を行っていました。自宅に直接訪問するので、患者さんの生活の様子や家族との関係が病院にいるときよりもよく分かりました。自宅が病院からどれくらいの距離にあるのか、自宅内にはどのような設備があるのか、本人は家でどれくらい動いているのか、普段介護を行っているのは誰なのかなど多くの情報が得られると思いました。実際、自宅を訪問すると高齢でも身の回りのことを自力で行えていて元気に動ける方がいれば、寝たきりの方もいました。家族も高齢で介護が難しい家庭では、必要なサービスが行き届いているかどうか、先生方がきめ細かく確認している様子がみられました。また、病院の近くには老人ホームなどがあり、施設に入所している方を定期的に診察していました。週に何回か沖の島診療所の支援も行っており、地域の中での施設間の連携が密に行われていると思いました。

外来では初診の患者さんの医療面接と診察、採血、インフルエンザのワクチン接種などを行いました。今まで採血は翼状針で行うことがほとんどだったので、直針での採血を経験できて大変勉強になりました。特定健診の採血にも参加させていただき、そこで直針での採血手技を多く経験することができました。採血や注射のときに患者さんの痛みを最小限にするための工夫を、看護師さんから教えていただくことができました。毎週木曜日は画像カンファレンスでCTを先生方と読む機会もあり、画像読影の仕方を学ぶことができました。大月は海が近い場所であり、趣味で釣りをする人や漁師の方が多いためか、外来ではゴンズイ刺傷など、魚釣り中の負傷も多くみられました。外来に海の生き物の図鑑が置いてあるのが印象的でした。外来は主に初診の患者さんを診ることが多かったですが、定期受診の患者さんを診る機会もあり、高血圧や糖尿病などの慢性疾患の管理方法や、患者さんの疾患に対する認識や理解度を確認することがいかに大切かを学びました。肺炎や心不全で入院している患者さんの管理についても主治医の先生と一緒に考察する機会があり、勉強になりました。救急搬送の件数は多くはありませんでしたが、腹痛や頭痛で搬送された患者さんの初期対応を経験することができました。大月病院ではCTを撮ることはできましたが、MRIの撮像が必要な場合は他の病院に転院が必要でした。そのため麻痺など頭蓋内疾患が想定される場合には、特に迅速な判断が求められるということを知りました。

医師や看護師の方が患者さんと会話しているのを聞いて、医療従事者と患者さんとの信頼関係を築くためには、疾患自体の管理だけではなく、家族との関係や仕事内容、どこに住

んでいるかなど、生活環境や社会背景を考えることが重要だということを学びました。特に看護師さんが病院に通院している患者さん本人だけでなく、家族のことも非常によく把握されており、医療従事者も家族のひとりのような感覚で接しているように感じられました。往診の際も、例えば高齢の患者さんでは介護をしている家族の心理面のサポートも、親身になって行っている様子がみられました。こうした温かみのある医療は、その地域の中での密な関係があるからこそできるものだと感じました。自分も今後、どのような専門領域を選ぶとしても、患者さんの医学的な問題だけでなく、社会生活面も考慮して治療プランを考えられる医師を目指したいと思いました。